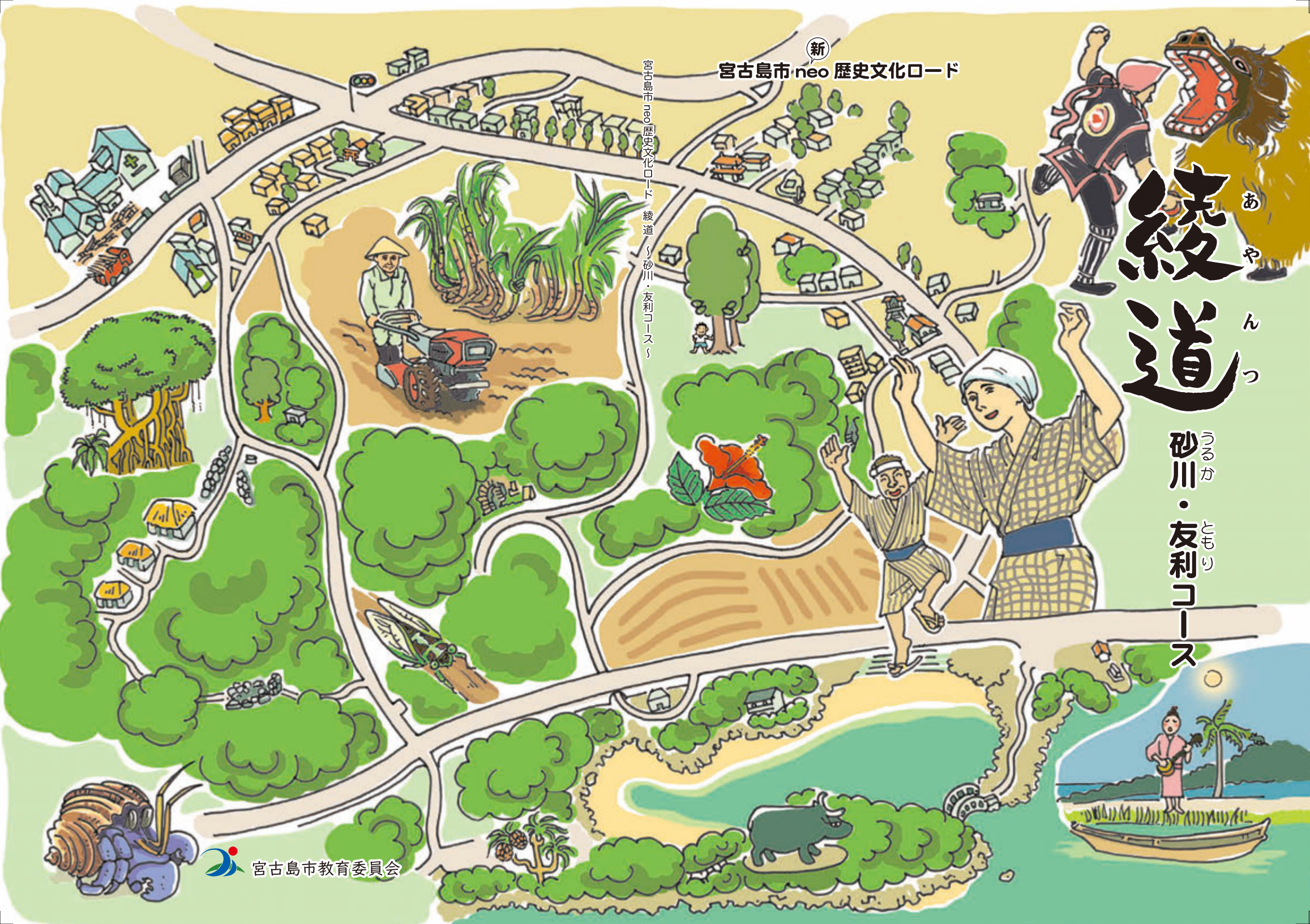


新
宮古島市 neo 歴史文化ロード

宮古島市 neo 歴史文化ロード 綾道 砂川・友利コース

綾道

あやんっ
うるか
ともい
砂川・友利コース



綾道

あやんつ

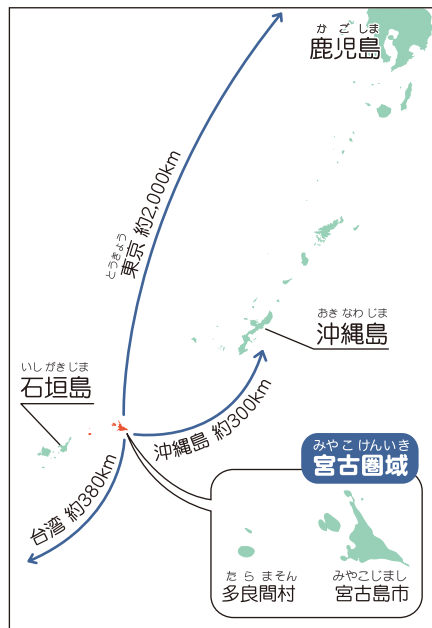
おもむき みち みやこ
「趣のある道」のことを、宮古のことばで「あやんつ」といいます

宮古島の位置と面積

宮古島市は大小6つの島(宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島)で構成されています。

総面積は204km²、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。



みやこしまし ねお れきしぶん か
宮古島市 neo 歴史文化ロード



綾道 (砂川・友利コース)

散策マップ	04
友利元島遺跡 埋蔵文化財	06
乾隆三十六年大波	07
2012年度発掘調査報告	08
シャコ貝製の斧／カムイヤキってなあに？	09
城辺町の友利のあま井 県指定有形民俗文化財	10
「降り井」はどうやってできたの？	
金志川泉 市指定史跡	12
「雍正旧記」ってなあに？	
金志川豊見親屋敷跡遺跡 埋蔵文化財	14
野原岳の変	15
2012年度発掘調査報告	16
中国産陶磁器のいろいろ	17
ンニマムトゥ(嶺間御嶽) 拜所	18
ツマグロゼミ 市指定天然記念物(動物)	19
上比屋山遺跡 県指定史跡	20
元島とさまざまな説／「倭寇」ってなあに？	21
ウイピャームトゥの祭場 県指定有形民俗文化財	22
「ナーパイ」の由来	23
先島諸島火番盛 砂川遠見(トゥンカイフツイス) 国指定史跡	24
各地の火番盛	25
うるかクイチャー 市指定無形民俗文化財	26
「クイチャー」ってなあに？	27
友利クイチャー 市指定無形民俗文化財	28
クイチャーと人頭税	29
友利獅子舞 市指定無形民俗文化財	30
文化財の体系図	32

うるかクイチャー p26

ともり
友利クイチャー p28

ともり ししまい
友利獅子舞 p30

ししまい
獅子舞

ンニマムトゥ
（額間御嶽） p18

きん すきやー どうゆみや
金志川豊見親
やしき あとい せき
屋敷跡遺跡 p14

きん すきやー
金志川泉 p12

ぐすくべちよう ともり
城辺町の友利の
がー
あま井 p10

ともり もとしま い せき
友利元島遺跡 p06

ウィピヤーム
さいじよう
トゥの祭場 p22

ういびやー やま い せき
上比屋山遺跡 p20

きさしましやとうひばんない
先島諸島火番盛
うる かとお み
砂川遠見 p24

ツマグロゼミ p19

ぜんちようやく
コース全長約5km
しよようじかん
所要時間3～4時間

START

ひがしへんなざき
東平安名崎へ →

イムギヤ
マリンガーデン

なりやまあやど
まっり

390号線

201号線

235号線

ひさ
平長へ

うるか
石川

うるかじんじや
石川神社

サトウキビ
（ブシギ）

ヒモリ本らばんしあど
友利本番所跡
（ブンシヤー）
ヒモリ じこうし
友利實功氏の生家
なりやま
あやど
まめたん

フクギ

ハイスカス
（アカバナ）

石積み

オカヤドカリ
（アマン）

ふんかむら
ドイツ文化村へ



とも り もと じま い せき 友利元島遺跡



とも り もと じま い せき は、せい き こう はん しゅうらく
友利元島遺跡は、13世紀から18世紀後半にかけての集落遺
跡です。みや こ じま みなみかいがん いっ たい おお つ なみ けんりゅう
宮古島の南海岸一帯の集落は、1771年の大津波(乾隆
三十六年大波)によって壊滅的な被害を受けました。

1987年、1995年、2012年に行われた発掘調査では、津波
が運んだ砂や小石が、近世の生活の跡を覆った状態で発見され
ており、津波によって当時の集落が大きな被害を受けたことが
分かっています。その後、集落は、海岸線近くから現在の位置
に移動しました。遺跡の一帯では、現在も中国産の陶磁器や土
器などが散在しています。

けんりゅうさんじゅうろくねんおおなみ 乾隆三十六年大波

1771年旧暦3月10日午前8時
頃、マグニチュード7.6の大地震が
生しました。震源は「石垣島南沖」
もしくは「石垣島と多良間島の間
沖」ではないかとされています。

その30分後には、宮古・八重山諸
島へ大津波が来襲。津波は3度押し
よせたといわれています。

この大津波は「乾隆三十六年大
波」、いわゆる「明和の大津波」と
いわれています。

みやくに しんざと うる か とも り ち いき ひがいにようきょう 宮国・新里・砂川・友利地域の被害状況

津波の高さ	3丈5尺 (10.6m) 程
全壊戸数	591戸
死者	2,042人
（百姓2,015人/役人5人/他村人22人）	
漂流生存者	（男12人/女4人） 16人

『御問合書』より要約 ※被災前の戸数などは分かっていない

おといあい がき
御問合書



宮古の古文書『思明氏家譜』の付属
文書である『御問合書(1807)』には、
当時の地震の様子や津波の来襲、各集
落の被害状況が記されており、宮古諸
島で、あわせて2,461名の死者が出
たと記されています(琉球王国の正史
『球陽』によると死者は2,548名)。



※現在の尺度と違っている場合があります



しも じまえやま せき ひ
下地前山にある石碑
おお つ なみ なが つ
大津波で流れ着いた
遺体を弔うために建
てられた石碑。石碑に
は「乾隆三十六年三月
十日大波 宮国 新里
砂川 友利」と刻まれ
ている。



2012年度発掘調査報告

友利元島遺跡

2012年12月から2013年1月にかけて実施された友利元島遺跡の発掘調査では、これまでの発掘調査にはない新しい発見がふたつありました。

ひとつめは、990～860年前に埋葬された人骨が発見されたことです。埋葬された人骨は、2体検出されています。1体目の第1号人骨は、両足を折り曲げた状態で埋葬されていました。そして、2体目の第2号人骨は、鹿児島県の徳之島で焼かれた完全な形のカムイヤキと一緒に添えられており、県内でも数少ない発見です。



発掘調査の様子

ふたつめは、無土器期と言われる、土器が使われなかった時代の生活の跡を残す層が確認されたことです。この層からは、シャコ貝を素材とした斧が15点出土しており、その当時の食料である、イノシシや魚の骨、貝なども出土しています。この層から出土した炭化物の年代測定を行ったところ、今から約1,400～1,250年前の値が得られています。



シャコ貝を素材とした斧（貝斧）



発見された人骨

シャコ貝製の斧

シャコ貝を素材とした斧のことを貝斧といいます。貝斧は、日本国内では、宮古・八重山諸島の遺跡からのみ出土するもので、海外ではフィリピンや太平洋諸島に同じものがあります。

主にシャコ貝の蝶番の部分を利用しますが、肋の部分を使うタイプもみられます。生活の様子などから、主に舟を作るための道具だったと考えられています。



カムイヤキってなあに？

カムイヤキとは、11～13世紀にかけて、鹿児島県の徳之島で焼かれた焼き物です。徳之島では、多くの窯跡も発見されており、11世紀頃から、奄美から宮古・八重山諸島まで、交易品として広く流通しました。2012年度の友利元島遺跡の発掘調査では、宮古島市で初めて完全な形のカムイヤキが人骨と共に出土しています。



友利元島遺跡出土のカムイヤキ

城辺町の友利のあま井

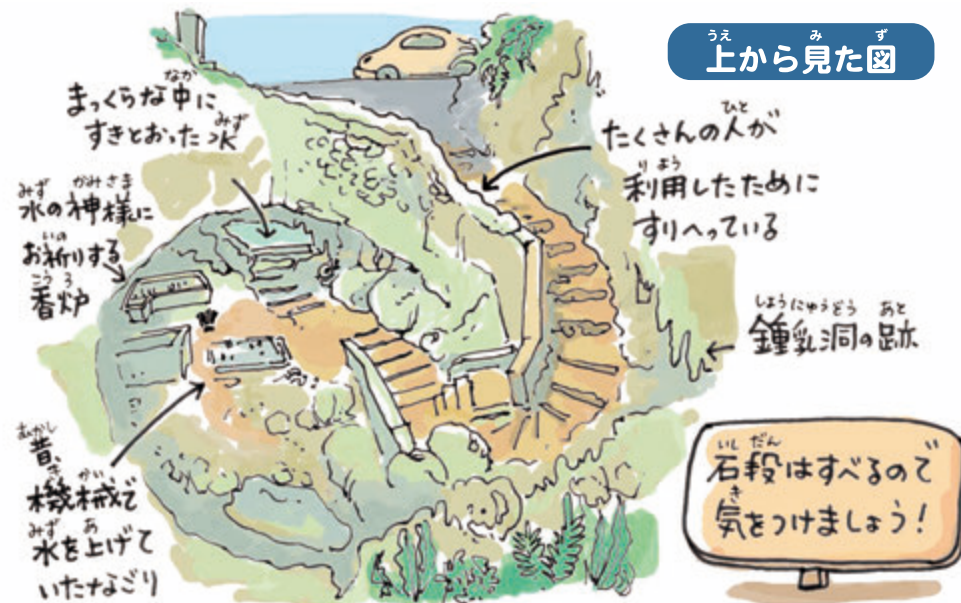


あま井は、城辺字砂川と字友利の境界にある洞窟井泉(降り井)です。降り口から湧き口までの深さは約20mで規模も大きく、現在でも水量は豊かです。1965(昭和40)年に城辺で上水道が普及するまでは、この井泉が飲み水を始め、生活を営む上の貴重な水資源でした。

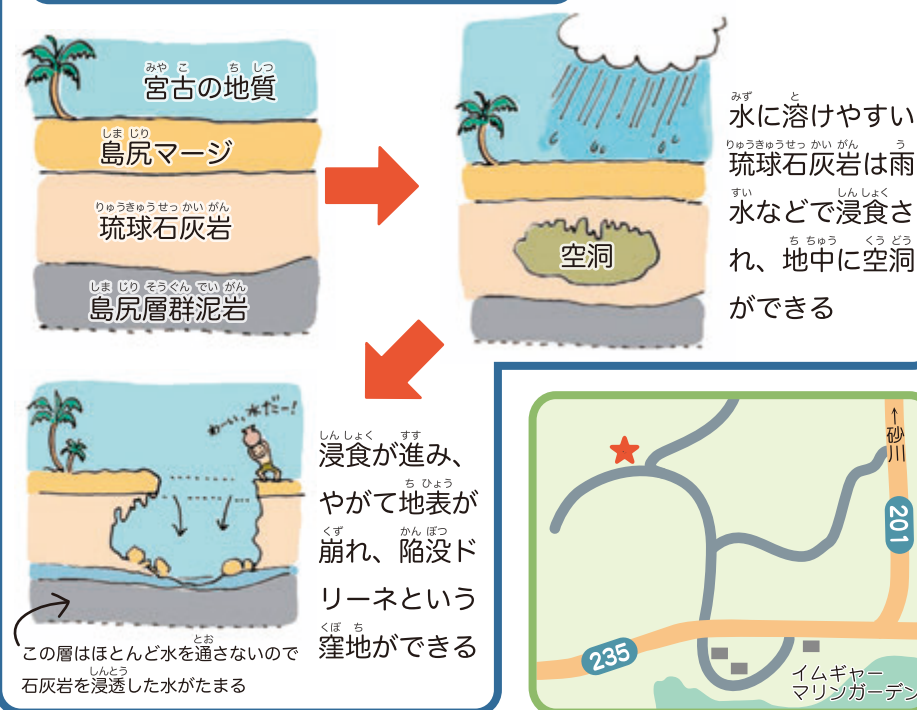
水汲みは女性や子どもの日課で、あま井に降りる石段や側面の岩には、すり減ってしまった部分が見られ、当時の苦勞がしのべれます。

このあま井については、『雍正旧記(1727)』に掘削年数は不明と記されており、いつ頃造られたのかはわかりませんが、友利・砂川・新里の各元島(旧集落)の住民が、1771年の「乾隆三十六年大波」以前から、現在の集落へ移動した後も、長く利用しました。宮古における地域住民の水利用のあり方や、その歴史的変遷を知る上でも価値の高い井泉です。

上から見た図



「降り井」はどうやってできたの？



金志川豊見親屋敷跡遺跡



金志川豊見親屋敷跡遺跡は、15～16世紀の城辺(現在の城辺地域)の有力者であった金志川豊見親の屋敷があったと考えられている遺跡です。現在の金志川御嶽一帯が、遺跡の範囲となっており、『雍正旧記(1727)』に記されている金志川城も同じ場所にあったと考えられています。

『雍正旧記』によれば、金志川城の規模は長さ17間(30.6m)、横16間(28.8m)で、門は卯辰(東南東)の方向にあったと記されています。現在はその跡を示すような石積みは残っていませんが、金志川御嶽一帯には、貝類や土器、白磁・青磁・青花といった陶磁器類などが散在しています。

※ 1 間は現在の尺度と違っている場合があります

野原岳の変

むかし、友利に金志川金盛と那喜太知という兄弟がいました。ふたりは、宮古の支配者である仲宗根豊見親が、石垣島や与那国島へ遠征するときに従軍して多くの手柄をたてるなど、知恵と勇気を兼ね備えた兄弟でした。しかし、兄の金盛は、与那国島の遠征の帰りに多良間島で亡くなってしまいました。そこで弟の那喜太知が城辺を治める首長となり、金志川豊見親といわれてみんなに慕われました。

仲宗根豊見親の長男である仲屋金盛豊見親の家臣の中屋勢頭は、そんな金志川豊見親の威勢をねたみ、仲屋金盛豊見親に、「金志川豊見親はあなたをないがしろにし、反乱を起こそうとたくらんでいます。」と言い、金志川豊見親へは、「仲屋金盛豊見親は、最近あなたのことを疑っています。」と、嘘をつきました。

だまされた仲屋金盛豊見親は、金志川豊見親を殺してしまおうと、宮古島の中央付近にある野原岳で宴を催し、そこに金志川豊見親を誘い出します。一方、金志川豊見親は、自分が争いを起こすつもりがないことを

伝えるために宴へむかいました。

宴もたけなわになったころ、仲屋金盛豊見親が盃を投げ捨て、「者ども出でよ!」と叫ぶと、隠れていた兵が一斉に現れました。金志川豊見親は、「私に異心がないことは太陽が照る如しである。過って後悔するでないぞ」と言いましたが、聞き入れられず、兵は剣を抜いて討ちかかりました。金志川豊見親は異心がないことを証明するために、崖から身を投げてしまいました。

その後、この事件を調べるために琉球王府から糾問使が来ることになりました。それを知った仲屋金盛豊見親は、自分の過ちを後悔し、自分をだました中屋勢頭を斬り殺した後に、自殺してしまいました。



ねん ど はっくつちようさ ほうこく
2012年度発掘調査報告

きん す きやー とうゆみや や しき あと い せき
金志川豊見親屋敷跡遺跡

金志川豊見親屋敷跡は、これまで
1995年(城辺町教育委員会)、2012
年(宮古島市教育委員会)の2回、発
掘調査が実施されています。

2012年の発掘調査は、金志川御嶽
内で調査を行いました。この発掘調
査では、現在の地表面から約20cm
ほど掘り下げると、建物の基盤の琉
球石灰岩に達しましたが、屋敷跡を
はっきりと示すようなものは確認す
ることができませんでした。しかし
少量ではありますが、土器や15~16
世紀につくられた中国産陶磁器(青
磁、青花)などが出土しています。

はっくつちようさ ようす
発掘調査の様子



一方、1995年に城辺町教育委員会
が実施した発掘調査では、多くの中
国産陶磁器(白磁、青磁、青花、褐釉
陶器)が出土し、当時の食料と考えら
れる動物の骨や貝類も多くみられま
す。動物の骨で多いのは、ウシ、ブ
タ(もしくはイノシシ)の骨で、ウマ
も少量出土しています。このウシの
骨の年代測定を行ったところ、今か
ら約500~450年前の年代の値が得
られています。



ちゅうごく さんとう じ き
中国産陶磁器のいろいろ

遺跡からは、多くの青磁、白磁、青花、褐釉陶器といった、中国で焼かれた
陶磁器が出土します。これらの陶磁器は、時代によって器の形や文様が異な
り、遺跡の年代を示す重要な資料となります。

